

明けましておめでとうございます！

年初めから寒い日が続いていますが、会員のみなさま、お子さま方にはお変わりございませんでしょうか。これからは風邪のはやる時期です。お体には十分気をつけて下さい。昨年の秋は昼食会、感覚的体験プログラム、東海北陸ブロック研修会と取り組みが続きました。お世話されたみなさん、参加されたみなさんごくろうさまでした。今年も重症児(者)の幸せのために力を合わせていきたいと思ひます。

初めての試み

和気あいあいだった昼食会

去る9月8日、「石川守る会」の初めての昼食会を国際ホテルで開催しました。急なお誘いだったにもかかわらず、当日は入所の方を中心に20名ほどの方に参加していただきました。普段顔を合わせていてもなかなかできない話にもゆっくり時間をかけられてよかったと思ひます。当日はホテルの送迎バスも出していただき、心置きなく飲んだり、食べたりできたことと思ひます。

今回は在宅の方が参加できずに残念でしたが、また企画した時には出席していただき、交流を深めたいと思ひています。

東海北陸ブロック研修会

—— 名古屋にて、6名参加 ——

11月16・17日名古屋で「全国守る会」の東海北陸ブロック研修会が開催され、石川県からは6名の会員が参加されました。研修会ではまず、運動推進部長から重症児(者)を取り巻く情勢報告がされました。従来の入所施設の拡大から通所施設に通わせながら在宅看護するという方向にシフトされつつあるが、重症児(者)のための通園施設やディサービスの施設が少ないとの指摘がありました。

会議は①在宅部会②国立施設部会③重症児施設部会の3分科会に分かれて協議されました。

在宅部会では15年4月から施行される「支援費支給制度」について講演と質疑がありました。支援費の認定をするのは各市町村なので、まず各人が自治体に確認することが大事であり、その情報を支部でまとめることが必要であると指摘されました。

3部会に共通の課題として「成年後見制度」について十分理解されていないことがあげられました。制度の利用方法と必要性は個々の家庭によって異なるが、もう

●障害児研修会始まる
全国重症心身障害児(者)を守る会東海北陸ブロック研修会が16日、名古屋市中区のホテルで二日間の日程で始まった。愛知、岐阜、三重、静岡、石川、富山の六県の重症心身障害児(者)の親を中心に、約百五十人が参加した。初日は同会の山中伸一運動推進部長が「従来は障害児を施設に入居させるか、在宅で世話するか、選択しなかったが、最近では通所施設へ通わせる選択肢が増えた。しかし、通所施設はまだ少ない」などと情勢報告した。

少し勉強会などをして理解を深める必要があったと思います。

国立施設部会と重症児施設部会共通の課題として利用者の「QOL（快適な生活環境）」向上について話し合われました。その中で施設の職員と保護者との意志の疎通が大事でそれぞれの気持ちが疑心暗鬼になってはいけないと話されました。言いたいことは言い、聞くべきことは聞くという姿勢が大切で、子どもの代弁者であるとの意識を持って欲しいとの助言がありました。

会議が無事終了して思ったことは、たくさんの方が私たちの子どものことを思っていてくださるということを実感したことでした。次の機会には多くの会員のみなさんにも参加していただければ「ウレシイナ」を共有できるかなと思いました。

会議の後のちょっとした市内観光は、特別楽しかったです。

M・Y

楽しくてためになった

感覚的体験プログラム

11月10日昨年に続いて2回目の感覚的体験プログラムが医王養護学校で開催されました。今回は「親子でなかよくリフレッシュ・リラックス」というテーマで午前中は車椅子ダンス講習、午後はスヌーズレンについての講演を行ないました。

冬を思わせるような寒い日でしたが、92人も参加がありました。車椅子社交ダンス普及会の方々の華やかなデモンストレーションが始まると会場は楽しい雰囲気になりました。講師の方々の誘いに初めはしりごみしていたみんなもマンボやチャチャチャなど楽しい曲につられてダンスの輪の中に入っていました。

曲もダンス音楽だけではなく、演歌や童謡やクリスマスにちなんだジングルベルなど多岐に渡っていて親子ともたちも楽しめたようでした。

車いすで楽しく
社交ダンス体験

障害児・者の30人

全国重症心身障害児（者）を守る会県支部の「本年度家庭で行う感覚的体験プログラム」が十、十一の両日、岩出町の医王養護学校などであった。

初日は、約三千人の障害児（者）とその保護者らが参加。車いす社交ダ



ンス普及会のメンバーの指導で社交ダンスに挑戦した。和気あいあいとした雰囲気の中、車いすでダンスを楽しんだ写真。

お昼はそれぞれお友達や家族と好きな場所でお弁当を食べました。

昼休みには午後からの講演のために体育館の隅に設置されたスヌーズレンを体験してみる人、昼食の後の休憩に入る人など自由に過ごしました。

午後からは子ども達は施設に帰ったり、ハートポッポで遊んだりし、家族の方は社会福祉法人仏子園・星ヶ岡牧場の雄谷施設長よりスヌーズレンについての講演を聞きました。スヌーズレンというのは1970年代にオランダで始められたもので一人一人が心と体に安心感のようなものを感じ、リラックスして楽しめる環境を提供するものです。光、音、匂い、振動などで五感を刺激して、重い障害を持つ人にも受け入れやすい刺激を提供し、障害を持つ人も持たない人もお互いの感覚や喜びを共感するというものです。まだ石川県内には余り取り入れられていないのですがもっと広がって誰もが気軽に体験できるようになったらいいと思います。

裏面に参加された方々の感想を載せておきます。

裏へ続く

車椅子ダンスの講習会に参加して

楠根 由紀

11月10日、早すぎる冬を思わせるような寒さの中、医王養護学校の中では暖かで心地良い空気が流れていました。「車椅子ダンス」と聞いて、最初はあまり期待していない自分であり、また、息子も同様だったのです。(実際、最初の挨拶や当日のスケジュールを開いている時、息子は不機嫌な様子でした。)

ところが、講習が始まって、音楽に合わせて体が揺れはじめると、あんなにぐずっていた息子が不思議そうな顔でその揺れを楽しんでいるのです。音楽も童謡あり、演歌あり、チャチャチャあり、とバラエティに富み、親でさえ楽しめるものでした。大人の障害者の方も、講師の先生に車椅子を動かしてもらって、とても幸せそうな笑顔を見せてくれました。

最初は、前に出て息子の車椅子を揺らすことに恥じらいを覚えていた私でしたが、何時の間にか心からダンスを楽しむことができ、日頃のストレスやもやもやが吹き飛んでいました。講師の方々の素敵なダンス、衣装、背筋のびんと伸びた様子、が今でも憶れとして心に残っています。いつか、息子と二人で素敵な衣装で踊れたら・・・というささやかな夢をプレゼントしてもらいました。なんでも、やってみるこが大事だということも教えてもらいました。
と

ほんとに、外の寒さとは対照的な心暖まるひと時をありがとうございました。

「あったらいいね病院にも」

山 本 衛

先日、石川県重症心身障害児・者を守る会主催で「感覚的体験プログラム」～親子でなかよくリフレッシュ・リラックス～が催されました。

第一部は、車椅子ダンス 第2部は、スノーブレンについての講演とミニ体験でした。翌日には、希望者を募って松任市にある「仏子園」に出向き本格的なスノーブレン施設の見学と体験をしました。

第一部の車椅子ダンスは、車椅子社交ダンス普及会のメンバーの指導で社交ダンスに挑戦しました、子供達はもちろん保護者の面々も日頃見せた笑顔とは比べようのない笑顔で車椅子でダンスを楽しみました

第2部は、スノーブレンについて社会福祉法人佛子園・星ヶ丘牧場の雄谷施設長さんから説明を兼ねたご講演を頂きました。

講演の内容は文章で表すとすると大変難解ですが一口に何かと言いますと人がそれぞれ一人一人心と体を感じる安心感と言いますかほっとする感覚を実体験するための補助とし光・音・匂い・触感を利用して五感を刺激して、重い障害を持つ人も受け入れやすい感覚刺激を媒介にし、障害を持つ人も持たない人もともに人として、お互いの感覚や喜びをともに共感して過ごすという考えです。

翌日「あったらいいね病院にも」スノーブレンの施設がと言うことで 松任市にある「仏子園」にいつて見学を兼ね体験することとしました

そこには、体に直接強い刺激を与える「アクティブルーム」と音・光・感触を中心として刺激を押さえた「ホワイトルーム」の設備がありました
「アクティブルーム」

部屋の中に入ったとたん、ミラーボールの光る中4000個あるボールプールを中心に原色に近い赤・黄・青の配色で滑り台・トンネル・ベンチを配置してあって何だか部屋に
いるだけで元気が出てきそうでした。子供には強すぎる子もいるかな！

「ホワイトルーム」

今度は、少し趣が異なり何となく柔らかい刺激と言いますかほんわかとした感じです
部屋全体がウオータベット・サイドグロウ・バブルユニット三つのユニットにより構成されて
いました。

強い色・強い刺激を出来るだけ避けたものになっていて鎮静効果があるという、暖かい
ウオータベット・柔らかいビーズクッション・安らぐ香り・薄暗い照明それに母胎の中の
赤ちゃんが聞く音ににていると言われるバブルユニットに触ったり寝たり座ったりして
「リラクゼーション」を体験することができました。

スヌーズレンについて私の拙い文章でご理解いただけたでしょうか「百聞は一見に如かず」
とされています正しくその通りですので、皆さんも是非体験して、「有ったらいいね
病院にも」と思っていたければ幸いです。

スヌーズレンを体験して

川端 久美子

2年程前に私は「スヌーズレン」という言葉を初めて聞き、話を伺う機会があり
ました。その時は「重度の我が子にとって良い刺激なのでは・・・」と興味があり
つつも、あと一步踏み込むまでにいかずそのまま月日が経っていました。

今回、スヌーズレンの講演と体験があると聞いて是非参加させていただきと強
く思い、我が子と参加しました。実際に仏子園のスヌーズレンルームを見学、体験
させて頂いて思っていた以上に私にとって、設備もさること乍ら、異次元空間のす
ばらしさに感激しました。アクティブルーム（動的刺激・4畳程）とホワイトル
ーム（静的刺激・9畳ほど）の二つの部屋がありました。まずアクティブルームに案
内されたのですが、赤、黄、緑、青の鮮やかな色が真っ先に目に入り、壁面には一
部鏡貼りがしてあり、滑り台やボールプールがあり、子供が好きそうな遊具や色使
いに私も童心に返り、二回も滑ってボールプールに埋もれしばらく寝そべっていま
した。何ともいえない手足の感触でした。

ホワイトルームではアクティブルームとは正反対でベースは白で、そこにハンモ
ック、ウオーターベッド、バブルユニットなど計十種類程が設置されていました。

私が一番気に入ったのはエオーターベッドとバブルユニットでした。視覚、聴覚
嗅覚、触角、圧覚、前庭覚などの提供する器具にとってもリラックスしました。我が
子は一部だけの体験でしたがソーラープロジェクターから写し出される絵と動きが
気に入ってにこにこしていました。

スヌーズレンは1970年代にオランダで重い障害を持つ人との関わりの理念として
始められたらしいのですが（リラックスして楽しめるものを提供）、障害を持たな
い人にとっても日常のストレスに満ちた生活から離れ、心身ともにくつろぎ、新
たな活動を沸き上がらせてくれるという点でも納得しました。

高価な設備器具類を用意しなければスヌーズレンが体験できないのではなく、市
販のインテリアグッズや落葉を集めて踏んで感触を楽しむこともスヌーズレンなの
だと聞いて身近にあった事に驚きました。また、スヌーズレンは環境を提供するも
ので、指導や治療といった教えるぶろぐらむではないことも知ることができ、私は
早々に身近なところの照明やインテリア、香、音楽等から子供とともに体験したい
と思っています。また機会があれば仏子園のスヌーズレンルームに親子で参加させ
て頂きたいし、石川県では3箇所の施設しか導入されていないとのことですので、
金沢でも少しずつ広がり増えていき、身近に利用できる事を切望しています。